

夏休みが終わりました。どのような夏やすみでしたか振り返ると本当に短かったな、と感じている人も多いと思います。実は、私もそのように感じています。

本校には「着実に努力」ということばがあります。

そこには、コツコツ努力することを尊ぶ学校教育方針本校の精神があります。「努力は実るから頑張ろう」とは言っていません。

どうやら、結果ではなく、努力することそのものがいいと考えているようです。どうでしょうか、皆さん。

「努力って何?」「結果が出なければ努力なんて意味がない」「努力だけで満足なんて甘すぎる」という声も聞こえてきそうです。

「努力とは、「今、この時」をその人なりに一生懸命生きていること」と私は考えます。時に身を任せず、恰好悪くても、やる。自分なりにベストをめざし、行動できる、大変なことではないですか。

1学期の終わりにお話したように、私たちの命は奇跡です。戦いで、病気で、事故で、世界にはこの時間、生死を決定している人が多くいます。

その、生きている私たちの時間を大切にすること、それも努力です。

せつかく努力したのだから、成果、例えば試合で勝つ、とか成績が上がる、とか目に見える成果が欲しいと考えるのが人情です。しかしその成果で得ることよりもむしろ、その過程で得られることのほうが自分にとっての本当の「宝」になることが多いのです。勝てなかった、悔しい。または勝った、うれしいだけでは成長はありません。だからこそ、その努力の過程で得られたことを自分の経験の中から探してみてください。私はこの夏、35年ぶりに会った高校時代の友人にそのころ私がかきながら突破口を見つけようと努力していたことを教えてもらいました。なぜかすっかり忘れていたのですが、そのことを覚えていたならばこの35年間もっと前向きになれたかな、と思いました。ですから、自分の経験の努力の姿を言葉にして心に留めてみることをお勧めします。「超やばい」とか「大丈夫」とか「がんばった」などといった簡単で便利な言葉でなく、じぶんじしんのなかにあることばを探してみてください。その言葉こそ、皆さんの「宝」になります。宝は皆さん自身の中に見つけることができます。成果は運や偶然で現れることがあります。これは自分の力ではどうしようもない。でも、努力は自分自身の気持ちと行動で積み重ねられます。運や偶然は関係ありません。だから、皆さんの本当の「宝」になります。誰も知らなくてもよいのです。なぜなら本当の「宝」は他人が作ってはくれないからです。

それでも見つからない時は少し、心が弱っているかもしれません。自分がときどき厄介に感じる時があるかもしれません。そのようなときは友人でも、先生でも、カウンセラーでもカンフル剤となる相談をしてみましよう。そして、また探してみればよいのです。

二学期、よい時を皆さんが刻めるよう心から祈っています。